



妙円寺詣りフェスタ
運営委員長 本村義光さん
(伊集院町向江町)

フェスタは関ヶ原400年記念の平成12年から、妙円寺詣りを盛り上げるイベントとして継続させています。年々、お客さんも増え、毎年、楽しみにしているという声も多く聞きます。

7月ごろから準備に入ります。多くのボランティアの協力をいただきながら、段取りや運営は慣れてきましたが、いちばん苦勞するのは資金の確保です。助成金や協賛金に頼っている状況です。

今年の日置市としての最初のフェスタ。舞台イベントも日置市全体から出演してもらっていますし、集客力も伸びたと感じています。今後、各地域のイベントと連携し、妙円寺詣りに合わせ宿泊して日置市全体を楽しんでもらえる取り組みも実現させたいですね。



妙円寺詣り武者行列保存会
会長 家村伸五さん
(伊集院町中央通)

戦後一時中断されていた武者行列は学生会により復活し、学生同志会で続けられていました。約30年前からは保存会を結成し、一般の人が中心に。

鎧甲冑は本番でしか身に着けませんが、一週間前から歩き方や隊列の組み方の練習をします。重いもので約30キ、商店街通りから神社までの約1キを1時間近くかけて歩くには体力も必要です。一時期、行列に参加する子どもたちが減少していましたが、紙よろいを普及させるようになって、ここ数年は増える傾向に。伝統の妙円寺詣りの精神を受け継ぐためにも、通りが子どもたちの隊列で埋まってほしいです。もちろん、希望があれば他の地域からの参加も歓迎、交流を広げたいですね。



▲ ミスひおきも正式にデビュー



▲ 赤い帽子をかぶった50人の高校生ボランティア

地域をあげて準備

旧暦の九月十四日に開催していた妙円寺詣りは、平成五年から十月の第四日曜日に開催されるようになりました。そして現在は、妙円寺詣りフェスタが十月第四の土日の二日間、妙円寺詣り行事の武道大会等が日曜日に開催されます。妙円寺詣りを間近に控え、伊集院の駅前や商店街、徳重神社周辺はのほり旗が立ち並び、地域の人や高校生らのボランティア清掃作業により、通りは参拝客らを気持ちよく迎える準備が整います。まちがだんだんと妙円寺詣り一色に染まっていきます。

十万人を超える人出

妙円寺詣りフェスタと第五十五回妙円寺詣り行事大会は両日とも好天に恵まれました。照国神社が二十二日にあった、

徳重神社までの二十キを歩いて参拝する「ウォークリー大会」には約五百人が参加し、途中三か所とゴールに設けられた各関所で、スタンプを押したり、ボランティアの人たちに励まされながら、約三時間から六時間かけて思い思いのペースで完歩しました。徳重神社前のフェスタ会場では、二日間にわたり、郷土芸能や太鼓、器楽演奏などの披露がありました。日置市として初めての妙円寺詣りに市内各地域から祭りに参加し、大勢の観客で盛り上がりしました。また、徳重神社には各地から歩いて参拝する人やよろいかぶとに身を固めた武者行列隊が続々と到着、境内で剣道や相撲などの行事大会があった二十三日は、徳重神社には人の波が途絶えず、普段静かなたたずまいをみせる神社周辺は終日、にぎわいました。



▲ 続々と到着する参拝客で境内は人の波



▲ 伊作太鼓踊りも奉納



▲ 終日、声援で盛り上がった体育行事

勇氣と苦難をしのびのび 薩摩武士の気風を継ぐ



妙円寺詣り

関ヶ原合戦で西軍崩壊のなか、敵陣を中央突破し薩摩に帰還した島津義弘率いる島津勢。その勇氣と苦難をしのび、義弘公の菩提寺である妙円寺（現在の徳重神社）に参拝する「妙円寺詣り」の行事が、十月二十二日から二日間にわたり開催されました。鹿兒島の三大行事に数えられるこの行事は、その起源は定かではありませんが、西郷隆盛や大久保利通も参拝したと記録され、戦後の一時中断を経て昭和二十六年より復活、現在まで受け継がれています。よろいかぶとに身を固め、長い道のりを歩いて参拝する武者行列は四百年の時を越えて、薩摩武士の勇壮果敢な姿をいまに伝え、大勢の見物人や参拝客から歓声を浴びていました。





▲ ボランティアでフェスタに参加。一日中頑張りました



▲ 妙円寺詣りに向けて旗立ての手伝いをした後、商工会青年部の中村さんを取材



▲ 大行進の休憩所でも取材



▲ 武者行列にも参加しました



▲ 当日も取材活動が続きます



▲ よろいかぶとを試着させてもらいました



▲ 20*歩いてもまだまだ元気



▲ 大行進には40人が参加しました



(写真上) 自分たちが調べたことを発表。熱心な意見交換が続きました

子どもたちは、妙円寺詣りの関係者を取材し、実際に体験し、地域で学んだことや理解したことを、三つの班ごとにまとめ、ポスターセッションを行い、お互いに伝えました。

参加者が減少している大行進

伊集院地域のたくさんの子どもたちに、妙円寺詣りの精神を受け継ぎ、強い心を持つてほしいと願い始めた取り組みです。

その思いとはうらはらに千五百人をピークにだんだん参加者が減少していることを知りました。今年の参加者は約六百人。このままでは参加者がいなくなってしまうと妙円寺小学校の四年生は訴えます。減少の理由は「きつい」「つまらない」など。実際、自分たちも初めての参加がほとんどでした。

妙円寺詣りに関しては、歌の暗唱大会の経験から、歌が22番まであることや、神社まで歩いて参拝するといった断片的なことを知っていても、その由来や歴史について理解している者や、実際に行事に参加した子どもは、ほとんどいませんでした。

そこで、妙円寺詣りで行われる行事を中心に「大行進」「ウォークリー」「行事大会」の三班に分かれて、それぞれ地域の関係者に話を聞いたり、実際に行事に参加しながら理解を深めていくことにしました。

【大行進チーム】

妙円寺詣り大行進は、教育委員会と地域子ども会育成連絡協議会が連携して行っている行事で、歩いて参拝するといった妙円寺詣り本来の姿を子どもたちに経験させ、その意義や伝統の気風を伝えよう

地元で古くから受け継がれ、なじみの深い伝統行事「妙円寺詣り」について学ぶうと、妙円寺小学校四年生の児童が社会科の授業で取り組み、その成果を十月二十八日にあった研究授業で発表しました。

妙円寺詣りに関して三つのテーマに分けて班をつくり、「見て・聞いて・参加して」学んだ約一ヶ月、彼らの取り組みを取材しました。

伝統の『妙円寺詣り』を学ぶ

地域が教材………妙円寺小学校

と妙円寺詣り本番の一週間前に行われています。

十月十五日にあった大行進には四年生の四十人が参加。初めて参加する子どもがほとんどです。鹿児島市からの二十*を実際に体験しながら、二十九回を数える大行進の事情や運営などについても教育委員会や子ども会育成会との関係者に取材しました。

【ウォークリーチーム】

ウォークリーは商工会青年部が中心となって行われているもので今年が十五回目、現在は妙円寺詣りフェスタの一環となっています。

市内外の多くの人に、照国神社から徳重神社まで歩いて参拝してもらい妙円寺詣りを盛り上げようと開催されています。

十月十二日には、市役所周辺でフェスタをPRするための、のぼり旗を組み立て、旗立てを手伝い

ました。また、商工会青年部の中村司さんから、妙円寺詣りの始まった歴史的な背景やウォークリーの取り組みについて話を聞きました。二十二日のウォークリーには四年生十三人が参加しました。

【行事大会チーム】

妙円寺詣りの行事のなかで最も注目を浴びる伝統的な武者行列。伊集院町武者行列保存会の家村伸五会長に、よろいかぶとにまつわる話を聞き、実際に身に付けさせてもらいました。今と昔の行列のちがいが本番に向けての練習などについて学びました。

それぞれ班ごとのテーマに基づき、二十二日、二十三日の妙円寺詣り当日も、フェスタや武者行列などに参加したり、ボランティアとして妙円寺詣りを体験しました。(通算して百二人の四年生が妙円寺詣りの行事にかかわる。)

連続して参加するとメダルがもらえる。歩いてみたら気持ちよかったです。もちろん来年も参加したいと、大行進が続くことを願っています。

人気が高いウォークリー

約二十*を鹿児島市から歩くことは「大行進」と同じですが、参加者が増えています。ウォークリーは参加した人に、伊集院のよさを知ってもらい、伊集院地域にたくさんの人が住んでもらいたいという思いで、商工会青年部が工夫しながら取り組んでいることが分かりました。そして、多くのボランティアにも支えられています。

コースに設置された関所やゴールで、スタンプ押しや給水などのボランティアも一緒に体験して、

妙円寺詣りは地元の誇り

研究授業では、妙円寺詣りに、それぞれの立場でかわってきた人々の苦労や思いを伝えようと夢中になって発表しました。

妙円寺詣りに関して、ほとんど知識のなかった子どもたちは、学習を通して、妙円寺詣りを身近に感じ、自信を持って話すようになりました。地域の人たちへの取材を通して、地域よさや伝統行事の素晴らしさに気がきました。自分たちの住む地域に「妙円寺

伊集院地域がもっと発展してほしいと願う関係者の気持ちも伝わりました。

歴史がある 伝統の武者行列

行事大会チームが最も関心があったのが、よろいかぶとを身に付けて神社に参拝する武者行列でした。

古いかぶとを目にし、実際に身に付けさせてもらい、関心は高まります。

武者行列の始まった歴史や理由を取材し、長い間、伝統を守り続ける大切さや大変さを理解しました。もっと子どもたちが参加してほしいと保存会の願いに、当日は行列にも参加しました。

伝統をいつまでも守ってほしい。そのために自分たちにも協力できることがあると分かりました。

語り」という素晴らしいモノがあるという誇りが生まれ、伊集院をもっと好きになったことと思います。「伝統を守ってほしい」「伊集院がもっと豊かになってほしい」「妙円寺地域の自慢」。子どもたちの感想にも表れています。

今回、初めて行事に参加した子どもたちは、来年も参加したいと口をそろえました。来年の妙円寺詣りに大勢の子どもたちの姿が見えることを期待します。

待望の六〇三席大ホールが完成



写真 右 音響効果抜群の大ホール
上 広い会議室としても利用できる多目的ホール
下 1階に社会教育課の事務室



東市来地域に大ホールのある生涯学習の拠点「東市来文化交流センター」が完成し、十月二十九日に落成式がありました。

これまで東市来地域には文化祭や生涯学習活動の成果発表の場としてのホールが整備されておらず、長年、市民が完成を待ち望んでいました。式には市民、関係者約六百人が出席、待ちに待った施設とあって、喜びの声があちこちから聞かれ、完成を祝いました。

式典後にあつた、鹿児島フエスティバルオーケストラの記念コンサートでは、音楽ホールとして県内有数の音響設備を実感し、楽しみました。

東市来文化交流センター

音響に優れた大ホール

平成十六年三月から東市来支所近くの長里麓上に建設中であつた東市来文化交流センターは、延床面積四千五百一十一㎡、総事業費約二十一億六千二百万円、特に音響に配慮した大ホール「こけけホール」が自慢の施設です。

こけけホールに入ると全席六百三席のゆったりとした客席と広いステージ、四百年の時を越えて、真っ赤に燃え上がる炎のイメージを表現した緞帳が目を引きまします。長年の夢である施設の建設に向けて、十年以上も運動に携わつてきた東市来地域文化協会の町田和

子会長は「今日の日を迎えられとてもうれしい。ここを拠点として文化の香り高いまちづくりに向け、文化協会の活動の場も広げていきたい」と喜びを語りました。

中央公民館も兼ねる

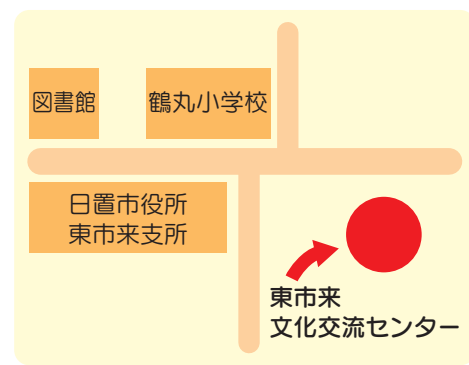
施設の完成に伴い、東市来支所の社会教育課も同センター一階に事務所を移し、中央公民館としての機能も持つようになります。

こけけホールのほかにも、大きな会議に利用できる多目的ホールや大小会議室、工作室、パソコン室なども整備され、生涯学習の拠点として幅広い活用が期待されています。



大勢の市民が参加して完成を祝いました

また、屋根には太陽光パネルが設置され、施設全体の総消費電力の約一割を太陽光発電システムで賄うことになり、環境にも配慮された施設となっています。



ぶらり立ち寄り

伊作えびす家がオープン

吹上町商工会空き店舗対策事業

十月二十九日、市役所吹上支所近くの商店街通り沿いに「伊作えびす家」がオープンしました。これは吹上町商工会が、空き店舗を活用した商店街等活性化事業で国・県・市の助成を受けて取り組んでいたもので、食堂跡の古い民家を改装して「ふれあい・癒し・賑わい」をテーマに装いも新たに魅力ある空間として生まれ変わりました。

名前は、商売繁盛の神様「えびすさま」と、通り沿いにある蛭子神社のご神体「蛭子像」にちなんで名付けられたもので「夫婦えびす」がシンボルマークとなっています。

昭和時代の懐かしさを感じさせる落ち着いた雰囲気の内は、新規開業希望者が試験的に営業できるチャレンジショップの店舗スペースのほか、観光案内所としての機能も持ち、インターネットも利用

できるようになっています。また、市民ギャラリーとしての展示スペースや休憩所・トイレなども設置され、気軽に利用できます。

商工会では、買物の途中でふらつと立ち寄り、お茶を飲みながら世間話を楽しめるような、ゆつくりくつろげる空間として気まままに利用してほしいと願っています。オープンには伊作小学校金管バンドが花を添え、団子屋やコーヒー喫茶、アロマセラピー、小物雑貨といった店舗や十七のボックスマーケットも同時に開店し、大勢の市民でにぎわいました。



写真 左 夫婦えびすが迎える外観
上 館内には団子屋や雑貨屋などの店舗が
下 休憩所としても利用できるスペースではお茶のサービスも



吹上町商工会
会長 西陽二さん

ここを拠点として地域の商店街に元気を

シャッターが下り、沈滞していく地元商店街の活性化に向けてこれまでいろいろ取り組んできました。伊作えびす家の開店にあたっては、通り会のアイデアで、みんなが協力しながら、責任を持って取り組んできました。

ここが商店街のシンボル、魅力ある場所として、皆さまに親しまれ、ここを拠点に、地域の商店街が潤い、地元商業の発展、地域の活性化につながっていくことを望んでいます。

憩いの場として、気軽に何度でもお立ち寄りください。



江口蓬萊館

10.1 来館者 100万人を記録
開館2年5ヶ月でのスピード達成

東市来江口浜海浜公園にある物産館「江口蓬萊館」の来館者が10月1日に100万人目を迎え、記念セレモニーがありました。

同館は平成15年4月19日にオープン、わずか2年半足らずのスピード達成となりました。見事、100万人目となったのは、毎週土曜日に訪れているという鹿児島市の佐藤幸子さん。「まさか自分が当たるとは夢のよう」と驚いた様子で、宮路市長らとクス球を割り、祝いました。佐藤さんには記念品と約30キロの秋太郎（パシヨウカジキ）が、また、前後賞となった入館者にも、鮮魚の詰め合わせなどが同館から贈呈されました。



十月二十四日と二十七日の両日、蒲牟田昭雄さんの畑で、芋掘り体験があり、鹿児島市の辻ヶ丘幼稚園児百六十人と玉里善き牧者幼稚園児二百六十人が参加しました。園児たちは気持ちよさそうに芋畑を駆け回り、思い思いに芋掘りを体験。またトラクターの大きさに驚き、トラクターを使ったツルはぎ作業に目を丸くしていました。袋いっぱい芋を抱きかかえ、重い袋を引きずりながら帰る園児らは「大きい芋がたくさんとれた」「また、来るからね」と喜んでいました。



芋掘り体験



稲刈り体験

十月十日、東市来地域尾木場集落で、鹿児島市を中心とする十九組六十五人の家族が地元農家の指導を受けながら稲刈りを体験。昼食には、地元の農産物を使った煮しめや漬物、棚田米を使ったおにぎりなどが振る舞われました。中には「尾木場の米のおいしさが忘れられなくて、また参加したい」と話す子どももいました。掛干した稲は、脱穀を行い、できた米をもみか白米で参加者に配布する予定です。また、十二月には年末の餅つきと門松作りも行われます。

Table with 3 columns: 順位 (Rank), 校区 (District), 得点 (Score). Lists results for school district competition.

※敢闘賞に皆田校区

Table with 3 columns: 順位 (Rank), 自治会 (Municipal Association), 得点 (Score). Lists results for municipal association competition.

仮装行列?ではありません 職域対抗リレーの一場面



第1回東市来地域運動会

安定した強さで上市来が8連覇
自治会対抗は荻に栄冠

日置市誕生後、初めての東市来地域運動会が、10月9日、絶好の秋空のもと、東市来総合運動公園で開催されました。

校区対抗では、輸入れとグランドゴルフで1位となった上市来校区が、優勝し、旧町の大会から通算して8年連続の栄冠に輝きました。また、自治会対抗では、荻自治会がチームワークの良さを発揮し、2年連続の優勝を飾りました。



全員がパーフェクト（上市来校区の輸入れ）



玉入れて1位になった川北自治会



応援団賞を獲得した上市来校区学生会の息のあった応援



街路灯を寄贈

10月25日、九州電力(株)鹿児島営業所から伊集院地域へ公衆街路灯5基が贈呈されました。お客さんへの感謝の気持ちを表すキャンペーンの一環として実施されたものです。



講演を聴く会

10月27日、伊集院文化会館でスポーツジャーナリストの二宮清純さんの講演会がありました。これは「講演を聴く会」の主催で行われたもので、会員になれば、どなたでも参加できます。会では年明けにも、講演会を予定しています。

酪農振興の弾みに

全日本ホルスタイン共進会に出品する日吉町の迫秀光・竜一さん親子の壮行会が10月25日にありました。5年ごとに開催される全国の代表牛が一堂に会する乳牛のオリンピックともいべき大会で、迫さんは前大会に続いての県代表。栃木である大会には後継者の竜一さんが参加。牛を磨き、調教し、ベストのコンディションで悔いのないようにしたいと決意を述べました。



全日本共進会壮行会



宝くじ公開抽選会に千人の市民

オータムジャンボ

十月十四日、伊集院文化会館で九月二十六日から全国で発売されていた、全国自治宝くじオータムジャンボの抽選会がありました。ジャンボ宝くじは年間五回発売されていますが、オータムジャンボは平成十三年に誕生した最も新しいもの。抽選会に合わせて、歌謡ショーやお楽しみ抽選会も行われるとあって、多くの市民が早朝から列をつくり、抽選本番では約千人の観客が、かたずをのんで見守りました。宝くじの収益金は市町村の明るく住みよいまちづくりや環境対策、高齢化対策など、地域住民の福祉向上のために使われます。



盟約継承締結式

交流の発展を誓う

10月22日に、これまで旧伊集院町が兄弟・姉妹都市盟約を締結していた岐阜県関ヶ原町、滋賀県多賀町、加治木町の3町と日置市の継承締結式がありました。これまでの交流をさらに発展させ、新たな交流を深めていきたいと確認しあいました。また、28日には旧東市来町が締結していた北海道弟子屈町との姉妹都市盟約継承締結式も行われました。

団体の部			総合の部		
順位	地域	得点	順位	地域	得点
1	土橋校区	128	優勝	土橋校区	193
2	郡	108	2	郡	171
3	飯牟礼校区	104	3	妙円寺西	161
リレーの部			4	妙円寺東	154
順位	地域	得点	5	飯牟礼校区	151
1	妙円寺西	20	6	麦生田・上神殿 つつじヶ丘	130
2	麦生田・上神殿 つつじヶ丘	20	7	徳重・原掛・出樋 城山・荒瀬	99
3	妙円寺東	17	8	朝日ヶ丘	97
躍進の部			9	清藤・猪鹿倉	90
順位	地域	得点	10	麓東西	88
1	土橋校区	36	11	大田・寺脇	87
2	妙円寺西	32	12	野田・桑畑 下神殿	81
3	飯牟礼校区	26	13	上方限・下方限	81
			14	町中央	74

十月九日、伊集院総合運動公園陸上競技場で第37回伊集院地域運動会がありました。昨年まで町民運動会として開催されていた大会を、内容はそのまま継続開催したもので、市民約三千六百人が集まり、地域対抗の種目に熱い声援を送りました。開会式で伊集院高校三年の和気あゆみさんが炬火台に点火し、伊集院中二年の三谷岳司君が力強く選手宣誓し、競技がスタート。十四の地域対抗で、十二の採点種目を争った結果、総合の部では妙円寺東の十連覇を阻止し、土橋校区が優勝を飾りました。

妙円寺東の10連覇を阻止し 土橋校区が優勝

伊集院地域運動会



▲心をあわせて(2本の棒で運ぶボールリレー)



▲運動会の華、リレーのスタート。リレー3種目の優勝は妙円寺西



▲空飛ぶ円盤(竹の高さは3.5m)



▲安全運転(スピード出し過ぎです)



▲選手宣誓は伊集院中二年の三谷くん



▲炬火者を務めた伊集院高校3年和気さん



日新小学校
 十月四日、日新小学校の全校児童五十四人が校区内の下原海岸でサンドクラフトに挑戦しました。これは同校の恒例となっている行事。子どもたちが地域の自然に親しみ、地域のよさを認識し、地域への愛着を深めてもらうことを目的に実施しているもので、一年から六年生まで縦にグループ分け

して共同作業することで、集団意識や連帯感を高めることにもつながっています。四班に分かれた子どもたちは高学年がリーダーになり、事前に計画を練り、本番でも下級生に的確に指示しながら共同作業。約一時間かけて、鯨やイルカ、ドラえもんなどの砂像が完成しました。

地元海岸で砂像に挑戦

日新小学校

10月9日、日置市となって最初の体育祭が、日吉地域体育協会の主催により開催されました。地域体育協会対抗と自治公民館対抗（17公民館）で競われた採点種目は白熱した争いになり、体協の部で吉利体育協会が3連覇、自治公民館対抗は八幡公民館が優勝。住吉体協によるマツケンサンバの応援団と、川西体協の女性応援団が熱い応援合戦を展開し、会場は笑いの渦に包まれました。

日吉体育祭

吉利体協が3連覇 自治会の部は八幡が優勝

自治公民館対抗			13 南区 15		
順位	自治会	得点	14	熊野	14
優勝	八幡	34	15	日置	4
2	日新	32	16	帆之港	1
3	山田	27	17	柿之谷	1
4	北区	25			
5	草原	24	地域体育協会対抗		
5	扇尾	24	順位	体協	得点
7	中区	23	優勝	吉利	157
8	見笠	21	2	住吉	121
9	諏訪	18	3	川西	116
10	西郷	17	4	川東	116
10	二濁	17	5	日新	109
12	毘沙門	15	5	扇尾	109



優勝した吉利の堂々とした入場行進



日吉
 秋祭り
 10/8



昨年までの夏祭りを秋祭り花火大会として開催。地元バンド「あすなろII」のステージや3千発の花火を楽しみました。



図書費
 を寄付

12女性団体によるバザー益金を図書購入費にと小中学校に寄付。今年で9年目。

保護司
 委嘱

10月11日に笠野芳生さんに保護司を委嘱。「勉強して地域のために尽くしたい。」



住吉のマツケンサンバ応援団



しっかり抱きしめて



ハートでキャッチ



緊張のスタート（輪なげ）



三輪車レース



今日は僕たちも主役



日置貴善舎（武者行列）



吉利共学舎（武者行列）



八幡公民館太鼓踊り（フェスタ）

妙円寺詣り

武者行列と
 フェスタに
 三団体が参加



じゃんけん大会 また勝ちました



大波・小波でジャンプ



川西の女性応援団

第41回 吹上地域民会 吹市運動会

野首地区 悲願の初優勝

吹上地域市民運動会が十月九日、全面芝となった吹上浜公園陸上競技場で行われ、歓声の中、幼児から高齢者まで22種目で熱戦が繰り広げられました。

地区別採点種目では野首地区が七種目中五種目で一位を獲得、41回の歴史で初優勝を飾りました。秋晴れの下、笑顔がはじけた運動会を写真で振り返ります。



2年ぶりに勢ぞろいした10本の地区旗



頼もしい 消防団緊急出動



元気いっぱいにおゆうぎ



ほんとに「世の中まならめ」

地区別順位

順位	地区
1	野首
2	永吉
3	花田
4	吹上
5	和田
6	坊野
7	伊作南
8	平鹿倉
9	藤元
10	伊作北



順調に跳んで…アツ



健康づくりに「みんなで体操」



吹上音頭に誘われて…



一滴もみらず確実に



にこやかに軽やかにステップ



むかでの親子対決



ねらい さだめて それッ



総合リレーは和田地区



目指せホールインワン



野首地区念願の優勝旗

湖面を揺るがす4千発

吹上秋祭り2005

第50回吹上さつま湖花火大会

「秋の一日を吹上で」。「吹上秋祭り」で吹上さつま湖花火大会が十月十六日、吹上浜公園とさつま湖畔で開催されました。

秋祭りは特産品の買い物やステージを見ようと、開場前から大勢が集まる盛況ぶり。日舞から洋楽まで幅広く繰り広げられる舞台が来場者を楽しませました。

出店は吹上産品のほか、交流の深い岐阜県上石津町や宮崎県佐土原町も軒を連ね、にぎわいました。また、大型バイクやカスタムカー展示も人気を集めていました。夜は半世紀の節目を迎えた花火

大会。それを記念して「メッセー」ジ花火」も企画されました。「来週結婚。愛してるよ」などの伝言が花火とともに響き渡り、観客から盛んな拍手がわいていました。

水中水爆、大ナイアガラ瀑布、仕掛花火。秋の夜空と湖面を彩るさつま湖ならではの4千発の音と光のショーは訪れた3万5千人を魅了しました。

翌朝は、たばこ販売組合や建設互助会、ライオンズクラブなどが早朝から清掃のボランティア。生徒らの通学時刻には、普段の風景にもどっていました。



ステージでは日舞をはじめ和太鼓や民謡が観客を魅了しました(秋祭り)



秋の夜空をこがし、湖面を揺るがす大迫力の花火

翌朝、大勢がゴミ拾いに参加してくれました



松原に響く唄声

しまつた野外コンサート

鹿児島国際大学の片倉講師と受講生による「しまつた野外コンサート」が十月十六日、吹上砂丘荘下の広場で開かれ、約七十人が夕暮れの松林で次々に繰り出される島唄に、その奥深さを知りました。

「吹上で、大好きな島唄を聞けるなんて」。観客は風景に溶け込む独特の唄を満喫していました。



厳かに奏でる伝統の調べ

妙音十二楽演奏会

妙音十二楽(県指定文化財)が十月十二日、吹上町田尻の中島常楽院で演奏されました。吹上や宮崎などの盲僧らが琵琶やほら貝、木魚など八種の楽器で、厳かな調

妙音十二楽は鎌倉時代初期、鳥津家の祈祷僧として下向、同院を建立した宝山検校が演奏させたのが始まりといわれています。演奏会に参加した、鹿児島市からのバスツアー客をはじめ約百五十人が、幽玄の世界に浸りました。

この日、長年、地元の環境整備と保全の取り組みに対し、天台宗総本山より保存会ほか関係団体に感謝状が贈られました。





ギョラワー 私の作品展

陶芸 花びん(一輪ざし)

前田 貢きん(69歳) | 日吉町日置

経営していたお菓子屋を息子に継がせた5年前から公民館講座で始めました。月1回の講座ですが、壁にぶつかるとすぐに先生のところに走るといほど熱中。今では毎年、作品を文化祭に出品するほど大きな力作が並びます。初めて焼いた作品は割れて失敗。でもそれが自分の原点と捨てずに置いてあります。盆栽や石の収集などいろいろやりましたが、陶芸がいちばんあっています。



ウカワ まちの文化財⑥

稲荷神社とヤッコソウ(東市来地域)

東市来地域湯之元の稲荷神社には、国指定文化財のヤッコソウ、市指定文化財の仁王像・狛犬・青面金剛像・大明寺跡の石塔・お田植え踊りの牛面があります。

ヤッコソウは大正11年に国指定(天然記念物)になっています。境内の椎の木の根元に寄生して、10月末から11月初めにかけて発生します。高さが3~4cmぐらいで、その姿が歩く「奴」に似ているのでこの名がつけました。

仁王像と狛犬は290年前に建立、仁王像は高さが2.4mほどの堂々とした姿です。青面金剛像は、202年前に建立、高さは1.2mの浮き彫り作り、忿怒の形相で火の髪を逆立て、腕は6本あります。これらの像は全て石製です。

「大明寺跡の石塔」は元禄10年(1697年)に建立、天和3年(1638)に稲荷神社と大明寺が移転した経緯を記した貴重なものです。

お田植え祭りの牛面は、3月3日に行われるお田植え祭りで使われます。面をかぶった牛の役が登場し、祭りを盛り上げます。



Access
本庁から車で15分
湯之元駅から徒歩で10分

わたしの将来の夢は、看護師になることです。その理由は、わたしが小学校二年生のときに、せんそくで入院し



ゆめ & チャレンジ

『めぞせ、看護師』

鶴丸小学校六年 川内 亜沙さん

た病院で、優しい看護師さんと出会ったからです。わたしは、入院してとてもさびしく不安でした。でも、その看護師さんと、話をしたり、遊んだりして、とても優しくしてもらいました。そのおかげで不安な気持ちが少なくなりました。折り紙を教わったり、読み聞かせをしてもらったりしたことを今でもよく思い出します。

わたしは、優しい看護師さんになり、入院している患者さんを安心させられるようになります。そのために、いつもみんなに優しく接していきたいです。また、夢に向かって、勉強や運動を一生懸命がんばっていききたいです。

いきいき ひと

シリーズ⑥



「地域の応援があったからこそ」 苦しい戦いを勝ち抜き、全国クラブサッカー選手権大会の出場を決めた原動力をそう振り返ります。

サッカーを始めたのは伊作小三年の時にスポーツ少年団で、先輩に勧められたのがきっかけでした。中学、高校と部活動でサッカーを続け、社会人となって間もない平成四年に、サッカー部の先輩や同級生と「吹上サッカークラブ」を結成。結成時のメンバーで選手として残っているのは、今村さんただ一人です。監督兼選手として、チームを引っ張ってきて四年、選手として最後の年に九州の頂点に立ちました。

普段の練習は、サッカーの出発点となった伊作小校庭で週一回。みんな、仕事を持っているので練習時間は限られてきます。「十一人集まらずに、八人、九人で試合したことも」 チーム解散の危機もありました。「サッカーを続けてきてたくさんの人といひ出会いがあった。いい指導者にも恵まれた。サッカーのおかげで成長できた。サッカーをしていなければ今の自分はない」口にするサッカーという言葉に、愛情と情熱が感じられます。

六年前から母校吹上中学校の指導も。そのとき、最初に教えた後輩が今年初めて高校を卒業しチームメイトに。「一緒にプレーしたい」という夢もかきました。「これからは監督としてクラブを存続させていくことに力を注ぎたい。指導している吹上中の後輩たちが一人でも多くクラブに入り、跡を継いで盛り上げてほしい」

サッカーを愛し、地道な活動が実を結ぶ



今村 周児さん [32歳]

いまむら しゅうじ
吹上町湯之浦 (小牧自治会)

全国クラブチームサッカー選手権大会に出場した「吹上サッカークラブ」の監督兼選手を務める。吹上温泉郷で「もみじ温泉」を経営。



谷崎 篤仁くん(1歳9ヶ月)

父 恵一さん 母 美佐子さん
(伊集院町飯牟礼)

■おかあさんから
弟が生まれておにいちゃんになります。弟をかわいがってね。



前田 菜々ちゃん(1歳11ヶ月)

父 勉さん 母 由里子さん
(伊集院町下谷口)

■おかあさんから
ごはんをいっぱい食べて元気に育ててね。

元気のあるお子さんの写真を募集しています。
市内に在住の6歳以下のお子さん
氏名 生年月日 保護者氏名 お子さんの近況・お子さんへのコメント 広報へのご意見
連絡先を添えて、市役所総務企画部企画課 住所は未定までお送りください。

